

2017年 1月28日

各 位

「第6回ごみと水を考える集い」呼びかけ団体代表

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会

実行委員長 坂野 一 博

<呼びかけ団体>

土岐川・庄内川源流の森委員会、藤前干潟クリーン大作戦実行委員会、四日市ウミガメ保存会、22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会、NPO 法人土岐川・庄内川サポートセンター

「第6回ごみと水を考える集い」の実施概要と採択アピールの送付

時下、益々ご清祥のこととおよろこび申し上げます。

さて、私たちは、去る1月22日に標記「第6回ごみと水を考える集い」（正式名称：第6回 藤前干潟 伊勢・三河湾のごみと水を考える集い）を名古屋市港区野跡の「名古屋市稲永スポーツセンター」において、愛知、岐阜、三重、三県の市民団体等27団体と9行政部署81名が集い開催しました。この集いには、お忙しい中、石川博基国交省庄内川河川事務所長、酒向貴子環境省中部地方環境事務所統括自然保護企画官、白村暁愛知県河川課主幹(大村秀章愛知県知事代理)、早川雅夫名古屋市環境局環境活動推進課長(河村たかし名古屋市長代理)、の四名の方がご来臨いただき激励のご挨拶を頂きました。

「集い」では、記念報告を土岐川・庄内川源流の森委員会の村上誠治事務局長に「森の健康診断の10年とその後」と題して、森と向き合ってきた10年間で確かな前進の局面を切り開いていることを報告して頂きました。ついで、「名古屋港のごみの実態と取組」「名古屋商業高校の取組」「藤前干潟のヨシ原調査の報告」の3特別報告から、水環境を守るための営々とした取組があること、ヨシの活用に向けた商品開発の努力が払われていること、ヨシ原調査が多面的に取り組みられました新たな一面を知ることができました。三つの分散会では、各団体の取組を交流すると共に、「漂着ごみの発生源を少なくすること」は出来ないかと有意義な話し合いをすることで、次の取組に対する認識を新たにすることができました。

まとめの全体会では、3分散会の座長から、分散会の報告があり、「第6回ごみと水を考える集いからのアピール」（別紙参照）を採択しました。まとめに立った22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会の森事務局長が、今年6月の藤前干潟エクスカージョンへの参加・協力を訴えて「集い」を終了しました。

恒例の「シン汁交流会」は、庄内川最上流の恵那市のシン肉のシン汁、藤前のごはんと漬物を美味しく頂きながらのなごやかな交流会となりました。

採択した「アピール」と当日の概要を紹介したチラシを送付します。

引き続き、ごみを出さない流域創りをめざした取り組みを共に推し進めましょう。

<問合せ・連絡先> 〒452-0000 愛知県清須市西枇杷島北枇杷池15-1

清須市庄内川水防センター内

藤前干潟クリーン大作戦実行委員会事務局（鈴木康平）

090-8421-1037

「第6回ごみと水を考える集い」は 河川財団の河川基金、一般財団法人セブンイレブン記念財団の助成を受けて実施しました。